認知症とは?

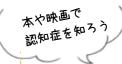
認知症について、皆さんはどのくらい知っていますか。正しく理解することが、認知症とと もに安心して暮らす第一歩につながります。

軽度認知障害【MCI】

物忘れなど軽度の認知障害があるものの 日常生活には大きな支障が出ていない状 態。そのままにしておくと認知症に進行 しますが、運動や食生活など対策するこ とで、健常な状態に戻る可能性がありま

認知症

さまざまな病気により、脳の神経細胞の 働きが減少することで、記憶力や理解力 などの機能が低下し、日常生活に支障を きたす状態。



マンガでわかる! 「認知症の人が見ている世界」



遠藤英俊監修 / 川畑智著

認知症ケアの現場で数多くの認 知症の方と接してきた著者が経 験をもとに、認知症をマンガ形 式で、分かりやすく解説してい



「ばあばは、だいじょうぶ」

認知症をテーマにした映画を上映します。 入場は無料です。

□とき 8月7日(水午前10時半(10時開場) □ところ 恵那文化センター

□申し込み 申し込むフォームから申し込む。 □・問 地域包括支援センター
■ 26-6828

○「ばあばは、だいじょうぶ」



もしかして、認知症かも

曜日を間違える、物をなくすことが増えたなど、認知症が心配されるようなことがあれば まずは地域包括支援センターに相談ください。

認知症初期集中支援チーム

地域包括支援センターには、認知症の早期診断と早期対応を目的に、一定期間(約6カ月)集中して支援する専門チー ムがあります。認知症サポート医と保健師、社会福祉士、認知症地域支援推進員の専門職で編成しています。

支援の内容

・相談と訪問

相談後、自宅にチーム員が訪問し、 本人や家族の状況を確認

チームで情報を共有し、よりよい生 活に向けたサポートを検討

初期集中支援の実施

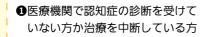
訪問活動など行い、サービス利用に つなぐ

支援・引き継ぎ

必要に応じて専門医療機関の利用な どのサポート、地域の医療や介護機 関に引き継ぎ

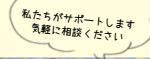
支援対象者

・40 歳以上の方で、認知症が疑わ れる方か認知症の方で、以下のど ちらかに当てはまる方



❷適切な医療・介護サービスに結び ついていない方か利用を中断して いる方







▲地域包括支援センターの職員

認知症とともに与きる

一安心して暮らせるまちを目指して一

高齢者の五人に一人は認知症になる。

そんな推計がある現在、認知症の方とその家族が安心して暮らすための法律「共生社会の 実現を推進するための認知症基本法」が昨年1月に施行されました。

認知症について、当事者、家族、地域としてどう向き合い、どう支え合うかが求められて います。

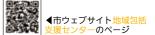
問 地域包括支援センター ■ 26-6828













ささゆりカフェに参加していた春日井伊都枝さんと伊藤誠枝子さん。 春日井さんがこのカフェに参加するようになったきっかけは、家族が認知症と診断されたことでした。

2025年7月 広報えな 広報えな 2025年7月 2

・認知症サポーター養成講座

認知症を正しく理解し、自分のできる範 囲で認知症の方やその家族を見守り、支 援する「認知症サポーター」を養成する 講座です。1回の受講でサポーターにな ることができます。



◀講座申し込み

今後の講座予定

日にち	時間	場所
7月24日休	午後2時~3時半	岩村コミセン
9月12日織	午後2時~3時半	市中央図書館
11月18日(火)	午後6時半~8時	市役所会議棟
令和8年1月23日倫	午後2時~3時半	市中央図書館
令和8年3月10日(火	午後2時~3時半	岩村コミセン

家族のつどい

認知症の方の家族、介護を経験した方が集ま る場として開催しています。

日頃の悩みをみんなで話すことで、リフレ ッシュしませんか。

7月の開催は本紙10分を参照ください。

・えな認知症みらいプロジェクト (恵那市チームオレンジ認定団体)

認知症の方もそうでない方も、安心し て暮らせるまちを目指す団体です。認 知症の方を地域の一員として捉え、と もに活動できる形を模索しながら、活 動しています。



・認知症の方の権利擁護



認知症の方も一人の個人として尊重され、その人らしい生活を送る権利があります。 権利擁護とは、その権利が実際に守られるように支援する活動です。

主には、成年後見制度や、高齢者虐待防止活動などがあります。通帳やお金の管理が心配、 介護で家族が疲弊し休まらないなど困りごとがあれば、地域包括支援

センターへ相談ください。



の結果、非常に軽度たのは脳神経内科。



認知症とともに歩む

市内に住む認知症の方に話を聞きました。認知症になってもこれまで通りの生活を送りたい。 そう願う方がいます。そのためには、認知症への理解を深め、支え合うことが大切です。

不安や戸惑

ことが少しず

であっ

出来事でした

知症でした。

「自分でできることはな でも、できる範囲の家事 でも、できる範囲の家事 と、これまで続けてきた と、これまでがけてきた 方々と話すことができ、つ人たちや、専門職の では同じような悩みを持



ようになりました。そこ談会や交流会に参加する催されている認知症の相 を感じました。

つけることができましい。私自身、地域とのつい。私自身、地域とのつといった。 んなときは、一人で悩まきっといるはずです。そな不安を抱えている方も ありません 安なことがあ いって、悲観する認知症になった 誰かに話してみるこ ることは、たからと たら しでも

0 過ごして 験か

地域ぐるみの支援



◀市ウェブサイト

認知症の方とその家族の方を支えるさまざまなサポートがあります。その一部を紹介します。

・ささゆりカフェ(認知症カフェ事業)

ささゆりカフェは、平成25年から始まった事業で、認知症の方とその家族を中心に誰でも参加できる交流 の場です。ゆっくりコーヒーを飲みながら、医療・福祉の専門スタッフに認知症の悩みなど相談ができます。



・見守リシールの配布



この見守りシールは、認知症の方が衣服や持ち物に貼るものです。認知症の方が行 方不明になった場合、発見した方が二次元コードを読み取ると、認知症の方の家族 と連絡をとることができます。シールを貼った方が一人で歩いているのを見かけた ら、ためらわず声をかけてください。



2025年7月 広報えな 広報えな 2025年7月